

令和5年度茨城県「薬と健康の週間」実施要綱

1 目的

本週間は、医薬品及び薬剤師等専門家の役割に関する正しい知識を広く県民に浸透させることにより、県民の保健衛生の維持向上に寄与することを目的とする。

2 実施期間

令和5年10月17日（火）から10月23日（月）までの1週間とする。

ただし、実情に応じ上記期間を適宜変更して事業を実施することは支障ないものとする。

3 実施機関

主催 茨城県、公益社団法人茨城県薬剤師会

後援 茨城県教育委員会、一般社団法人茨城県病院薬剤師会、一般社団法人茨城県医薬品登録販売者協会、公益社団法人茨城県医薬品配置協会、一般社団法人茨城県登録販売者協会、茨城県医薬品卸業組合、茨城県医薬工業会、茨城県医薬関連研究機関協議会、茨城県試薬業協議会、茨城県薬物乱用防止指導員協議会

4 実施事項

医薬品や医薬品の専門家である薬剤師等の役割に関する正しい知識について、県民に対し広く普及を図るため、次の事項に重点を置き、主催者は相互に緊密な連絡を取り、後援者の協力、広報機関等の活用を含め、それぞれの実情に即した計画を策定して実施する。

特に、かかりつけ薬剤師・薬局が、処方箋受付時の調剤だけでなく、処方箋受付時以外の対応（例えば、ポリファーマシーの解消や重複投薬の防止、残薬の整理、調剤後のフォローアップ等）、ファーストアクセスとしての健康サポート機能（健康相談、一般用医薬品等の相談等）を行うことを紹介し、これらによる医療の質の向上を一人でも多くの県民が実感できるよう、積極的な取組を展開する。

また、健康サポート薬局、地域連携薬局、専門医療機関連携薬局の役割等について周知を行う。

(1) 薬剤師・薬局の役割や特徴についての理解を深める事項

ア 重点事項

(ア) 薬剤師・薬局の基本的な役割の理解、処方箋調剤以外での薬局の活用

薬剤師・薬局には主に以下のような役割があることの普及啓発を図る。

- a 医療保険・介護保険分野（処方箋調剤など）
- b 要指導医薬品・一般用医薬品の販売
- c 薬事衛生（学校薬剤師、薬物濫用対策、新興感染症や災害等の有事への対応）

そのうえで、特に、処方箋受付時の調剤だけではなく、処方箋調剤以外の対応（例えば、ポリファーマシーの解消や重複投薬の防止、残薬の整理、調剤後のフォローアップ等）、ファーストアクセスとしての健康サポート機能（健康相談、一般用医薬品等の相談等）が薬局で行えることを紹介する。

(イ) 地域住民がかかりつけ薬剤師・薬局を持つことによる利点

県民がかかりつけ薬剤師・薬局について理解し、積極的に活用できるよう、かかりつけ薬剤師・薬局を持つことによる以下の利点について、普及啓発を図る。

- a かかりつけ薬剤師が薬の情報等を一元的・継続的に把握することで、患者が複数の医療機関・診療科を受診している場合でも、処方された薬の重複防止や相互作用の確認のほか、薬の副作用や期待される効果について継続的な確認を受けることができる。
- b 薬の副作用や飲み間違いなどについて、休日・夜間を含めいざというときや困ったときに、かかりつけ薬剤師・薬局に電話等による相談ができる。
- c 薬の飲み忘れや飲み残しで困ったとき、かかりつけ薬剤師に相談することで、薬を適切に使用するためのアドバイスを受けられるほか、飲み残しの薬（残薬）の問題などを解消することができる。

(ウ) 薬局の特徴とそれを知るための方法

患者が自身にあった薬局を選ぶ方法として、「健康サポート薬局」、「認定薬局制度」、「薬局機能情報提供制度」などが活用できることについて、以下の内容を参考に紹介する。

a 健康サポート薬局及び認定薬局

以下のような特徴を参考に薬局を選択することが可能である。

- ・ 健康サポート薬局（地域住民による主体的な健康の維持・増進を積極的に支援する薬局）
- ・ 地域連携薬局（入退院時の医療機関等との情報連携や、在宅医療等に地域の薬局と連携しながら一元的・継続的に対応できる、かかりつけ機能が充実した薬局）
- ・ 専門医療機関連携薬局（がん等の専門的な薬学管理に関係機関と連携して対応できる、高度薬学管理機能を持つ薬局）

b 薬局機能情報提供制度

薬局機能情報提供制度では、前述の健康サポート薬局及び認定薬局であるか否かの情報に加えて様々な情報を提供しており、例えば、①相談できる内容（生活習慣病等の健康相談、禁煙相談等）、②夜間・休日対応の可否、③在宅医療への対応の可否、④バリアフリー構造に対応している設備等、⑤入退院時の情報連携体制の有無を知ることが可能である。

このほか、地域における多様な薬剤師サービス（注）について、地域の薬剤師会等の関係者が情報収集・提供を行っている場合には、当該情報も紹介する。

（注）例えば、糖尿病患者への説明・セルフケア支援、医療的ケア児・緩和ケア等の在宅対応、コミュニティスペース、栄養サポート、検査等がある。

イ その他紹介すべき事項

- （ア） 薬剤師は、患者の服薬期間中も服用薬の効果や体調変化を必要に応じ把握し、医療機関への受診勧奨や医療従事者間で当該情報の共有を行うなど、患者にとってより良い医療を提供することについて、その役割をより一層積極的に紹介する。
- （イ） セルフメディケーション推進の観点から、地域住民が自分自身の健康に責任を持ち、積極的かつ正しく薬を使用し、健康増進に努める重要性を周知する。
その際、かかりつけ薬剤師・薬局としての基本的機能を備えた上で、地域住民の健康の維持・増進を積極的に支援している健康サポート薬局を活用できるように、その役割と活動状況を積極的に紹介する。
- （ウ） 薬剤師・薬局は、地域の在宅医療をはじめ、地域包括ケアシステムの担い手の一員であることから、他の医療・介護職種や地域住民に対して、地域包括ケアシステムにおける薬剤師・薬局の役割と活動状況を積極的に紹介する。
- （エ） 薬剤師・薬局は、後発医薬品の使用推進に関して、大きな役割を担っていることから、地域住民や他の医療・介護職種に対して後発医薬品の情報提供に関する薬剤師・薬局の役割について正しい理解・知識を普及啓発する。
- （オ） 薬剤師・薬局は、公衆衛生面において、地域住民に正しい情報を提供し、相談に応じながら、正しい理解を促す役割を担っていることから、感染症対策として手洗い等の基本的な対応の周知など公衆衛生の向上及び増進における薬剤師・薬局の役割について周知を図る。
- （カ） 地域連携薬局、専門医療機関連携薬局について、それぞれの意義や役割について周知し、理解を促す。

（２） 医薬品についての正しい知識を普及する事項

- ア 医薬品は病気や怪我を治すのに役立つ一方、正しく使わなければ健康を損なうおそれがあることから、県民が医薬品に関する正しい知識と理解を深めることができるように普及啓発する。
- イ 医薬品について不明な点がある場合や、医薬品の服用後に問題が生じた場合には、医師、薬剤師等の専門家に相談等をするよう、普及啓発する。相談等の内容から、副作用の疑いがある場合は、製薬企業、医療機関、薬局等から厚生労働省、PMDAへ報告が行われる制度があり、報告されたデータの調査結果に基づき、必要な安全対策措置や情報提供が行われていることについても広く周知する。
- ウ 医薬品は、使用期間、効能、効果、用法、用量、保管方法などを守り、使用上の注意

を十分に理解して、正しく使用しなければならないことを普及啓発する。

特に高齢者については、肝・腎機能低下のため副作用が起りやすく、また複数の医療機関・診療科受診による重複投薬、相互作用又は記憶力・注意力低下による誤用等の危険性が高いことから、ポリファーマシー解消の観点も踏まえ、なお一層医薬品の正しい使用を普及啓発する。

また、医薬品の誤飲事故、特に小児による医薬品の誤飲事故の事例が多いとされていることから、医薬品を小児等の手の届かない場所に保管するなど、適切な保管・管理をするよう、患者の家族等へ注意喚起とともに普及啓発する。

エ 一般用医薬品等の販売制度の周知を通じて、医薬品の適正使用のためには、薬剤師等から医薬品のリスク、副作用等に関する情報提供等を受けることが必要であることを普及啓発する。

オ 一般用医薬品等の販売の際、薬剤師等が、購入者から健康食品等の摂取状況を聴取し、過剰摂取や医薬品との相互作用等について確認し、購入者に対し必要な注意喚起をするなどの取組を行う。

カ 一般用医薬品等の販売ルールの遵守について点検を行う。

キ 濫用や過量服薬等のおそれのある医薬品について購入者に対し必要な注意喚起をするなどの取組を行う。特に、「濫用等のおそれのある医薬品」について社会全体への認知度を高めるべく周知を着実にを行い、なお一層、適切な使用を普及啓発する。

ク 後発医薬品について、正しい知識と理解を深めることができるように普及啓発する。

(3) その他

ア お薬手帳の活用が、調剤された医薬品のみならず、一般用医薬品等を含め、使用する医薬品の重複投与や相互作用の確認等に有益であることを周知し、普及を図る。

イ 電子版お薬手帳における医薬品の検索機能や安全性情報の取得機能、服用タイミング等のアラート機能、過去に処方・調剤された薬剤情報の把握・管理を容易にするマイナポータルと連携した機能等の活用が有益であることを周知する。

ウ 令和5年1月から開始となった電子処方箋により、複数の医療機関・薬局・患者間で過去の薬剤情報も含めた共有が可能となり、重複投与や相互作用の確認等により、安心安全な医療につながることを周知する。

エ 一般用医薬品のインターネット販売を行っている販売サイトを利用する際には、厚生労働省のホームページで自治体から厚生労働省に報告されたものであることを確認し、安全な医薬品を安心できる販売サイトから購入するよう周知する。

オ 医薬品副作用被害救済制度及び生物由来製品感染等被害救済制度、患者副作用報告制度、予防接種健康被害救済制度について周知する。

カ 麻薬、覚醒剤をはじめ、危険ドラッグや大麻等の危険性及び乱用が健康に及ぼす影響を周知し、特に青少年に対する薬物乱用防止の啓発活動を展開する。

キ 地域住民に対し、献血への理解及び協力を求める普及啓発を行う。

ク 医薬品開発について広く県民へ周知し、その中で臨床研究や治験の意義等について普及啓発を行う。

5 実施事業

県、各保健所及び県薬剤師会において行う事業は、以下のとおりとする。

(1) 県において行う事業

ア 広報機関等による啓発宣伝

- (ア) 各種の広報機関への本運動の広報資料の提供
- (イ) 茨城放送によるラジオ放送
- (ウ) SNS等を含むインターネットを活用した広報
- (エ) ポスター、パンフレット等の配布

イ 各種催し物等の実施

- (ア) 薬事功労者知事表彰の実施
- (イ) 地域薬剤師会が開設する街頭「くすりの相談所」への協力

ウ その他

- (ア) 「薬局機能情報提供制度」の周知

(2) 保健所において行う事業

ア 関係機関（市町村を含む。）及び各種団体と連携した事業の実施

- (ア) 地域薬剤師会が開設する街頭「くすりの相談所」への協力
- (イ) 医薬品、医療機器等の苦情等の相談応需

(3) 県薬剤師会において行う事業

ア 広報機関等による啓発宣伝

- (ア) 各種の広報機関への本運動の広報資料の提供
- (イ) 茨城放送によるラジオ放送
- (ウ) 薬局へのポスター、パンフレット等の配布

イ 各種催し物等の実施

- (ア) 「お薬講座」等の講習会の開催
 - (例) 薬の正しい使い方、薬の副作用、薬と健康食品との相互作用、後発医薬品、セルフメディケーション、高齢者及び小児の薬の誤用・誤飲防止等
- (イ) 薬剤師・薬局が地域に貢献している事例等の積極的な紹介及びかかりつけ薬剤師・薬局の趣旨の周知を図るため、地区ごとに薬剤師会、医師会や歯科医師会との懇談会等の開催
- (ウ) 街頭「くすりの相談所」の開設
 - a アンケート調査等の実施による県民の「かかりつけ薬剤師・薬局」に対する認識の把握

- b 在宅医療・健康相談等の実施を含めた薬局・薬剤師の社会的役割についての啓発活動

(4) 実施計画及び結果

- ア 各保健所は、薬と健康の週間に係る実施計画について、9月1日（金）までに別紙1により薬務課あて報告すること。
- イ 各保健所は、薬と健康の週間に係る実施結果について、事業終了後10日以内に別紙2により薬務課あて報告すること。

(5) その他

- ア この要綱に掲げるもののほか、各種関係団体と連携を取り、相互に協調し、それぞれの実情に即した運動を実施する。

(別紙1)

「薬と健康の週間」実施計画書

保健所名 _____

担当者名 _____

日 時	
場 所	
催 事 名	(産業祭等で実施する場合は、その催事名を記入してください。)
主な計画内容	

(別紙2)

「薬と健康の週間」実施報告書

保健所名 _____

担当者名 _____

日 時	
場 所	
催 事 名	(産業祭等で実施する場合は、その催事名を記入してください。)
実 施 内 容	
参加者(団体)	
啓発対象者人数	